



2021年5月31日

各 位

会 社 名 サクサホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 丸井 武士
(コード番号 6675 東証第1部)
問合せ先 総務人事部長 和田 聡
(TEL. 03-5791-5511)

中期経営計画（2021-2023）策定のお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2021年度から2023年度までの3か年を計画期間とする『中期経営計画（2021-2023）「サクサは変わる。」』を策定しましたので、下記のとおりその概要をお知らせいたします。

なお、計画の詳細につきましては2021年6月8日に説明会資料を開示する予定です。

記

1. 策定の背景

前中期経営計画（2018年3月期～2020年3月期）を受けて、本来であれば2021年3月期を初年度とする中期経営計画を策定、実行するところでありましたが、不正会計問題の対応のためできませんでした。今般、不正会計問題により経営体制が刷新されたため、新たに中期経営計画を策定し、企業価値向上に向けての道筋をつけたうえで、2026年3月期には売上高400億円、営業利益25億円、ROE6.5%以上を目指します。

2. 基本方針

当企業グループは、1932年創業の大興電機製作所と1946年創業の田村電機製作所が2004年に経営統合して誕生しました。創業以来約90年に渡り、ボタン電話装置を中心とする通信機器の開発、製造、販売を通じて、我が国の通信インフラの発展に寄与してまいりました。

しかしながら、スマートフォンの普及や通信手段の多様化、デジタル化によりボタン電話装置市場は漸減しており、今般のコロナ禍や働き方改革は、その流れを加速するものと考えられます。一方、当企業グループのコア技術である通信技術を活用したセキュリティアプライアンス関連機器（UTMやストレージ機器）は、ネットワークセキュリティの重要性の高まりから順調に市場シェアを獲得し、ボタン電話装置に並ぶ収益の柱となっております。また、グループ会社である株式会社システム・ケイが手掛ける監視カメラシステムは、AIや画像認識技術の進化と相まって急速に市場規模が拡大しており、飛躍的な成長が見込めます。

以上の状況を踏まえ、今般策定する中期経営計画について次の3点を基本方針といたします。

- ① ボタン電話装置やセキュリティアプライアンス関連機器等の製品の開発製造販売事業については、事業中核会社であるサクサ株式会社の基に、グループ各社（株式会社システム・ケイを

除く)を機能毎に再編集約し、事業や製品の選択と捨象を進めながら、徹底したコスト削減と効率化により、市場シェアと収益を維持します。

- ② 株式会社システム・ケイを、ソリューション事業中核会社と位置づけ、マルチベンダーとしての強みを活かし、AI等映像ソリューションや録画監視システムを軸にしたソリューション事業を拡大します。
- ③ 当企業グループのプロダクト(ボタン電話装置やセキュリティアプライアンス関連機器等)を、共通のクラウド基盤「SAXA-DX サービスプラットフォーム」で繋ぎ、プロダクトとサービスが一体となった、中堅・中小企業向けのDX(デジタルトランスフォーメーション)支援サービス事業を展開し、お客様の課題解決、DXを支援していきます。

上記①～③を実行するために、M&A やアライアンスを含め積極投資を行います。投資資金は、保有資産の有効活用(保有有価証券の売却、保有不動産の売却と収益化)により確保いたします。また、必要に応じて財務レバレッジを利かせ、タイムリーかつ投資目的に合った資金調達を行います。

3. 経営目標数値(2023年度)

(単位:億円)

	2020年度 実績	2021年度 予想	2022年度 目標	2023年度 目標	2025年度 目標
売上高	365.6億円	315.0	335.0	355.0	400.0
営業利益	22.8億円	7.5	10.0	18.0	25.0
ROE	-%	1.7%	3.0%	5.2%	6.5%

(注) 当リリースに掲載されている予想や見通しは、種々の前提に基づくものであり、将来の計画数値施策の実現を確約することや保証するものではありません。実際の業績は、今後のさまざまな要因により計画数値と異なる場合があることをご留意ください。

以上